

暑さの中でも、夜には秋の虫たちの鳴き声が聞こえてくるようになりました。窓を開けることもままならない酷暑で、なかなか聞けないですね。長い夏休みも終わり2学期が始まりました。学期はじめは、心も体も不安定でしんどくなる時があります。注意や叱責ではなく、話を聞いてあげることが心の安定につながります。寄り添いながら、前向きな気持ちにつながるよう声をかけてあげてください。



学力・学習状況調査



4月18日に実施した、6年生の学力・学習状況調査の結果が届きました。算数・国語・学習状況調査の3つです。国語・算数の正答率は、国や県、市の平均と大きな差は見られませんでした。無回答の児童が少なく、最後まで前向きに解いていたことがよくわかります。いろんな資料を見て考える問題が少し苦手ようです。質問への回答は、平均よりもポイントが高いものが多く、自己有用感にかかわる質問（自分にはよいところがある、先生はあなたのよいところを認めてくれている、将来の夢や目標を持っている）への回答もかなり高いポイントでした。自己有用感が高いと、どんなことがあっても前向きにがんばることができます。

愛着障害を知っていますか？

発達障害のほとんどは、産まれた時からの脳に起因する障害ですが、愛着障害は、産まれてからの親子のつながりから起こる障害です。幼いころに暴力を受けたり放置されたりする虐待や、DVが目の前で起こったりすることで安心して過ごせなかった、親の一方的な思いが子供とずれてしまっている、等で起こる障害です。簡単に言うと、「親といれば安心できる、親といれば安全に過ごせる、何かあっても親の元へ帰れば守ってくれる。」という思いが持てない障害です。そのため、じっとできずに動き回る、注意しても何度も悪いことをする、友達に攻撃し何度もけがをさせる、親に反抗的な態度をとる、暴言を吐く、やる気がなく人と関わろうとしない、。

発達障害と見分けにくいことや両方の障害があることで、うまく子育てできないことが多いそうです。気になる方は、調べてみてください。愛着障害の改善には、親が学んで接し方を変える必要があります。

さすが城東っ子

夏休みの間に、うれしいことが2つありました。1つは、姫路小学校水泳大会でのことです。5年生男子の種目を応援していると、城東小学校の子が泳ぎ終えた後、競技役員が近づいてきたので「泳法違反か？」と緊張したのですが、特に放送もなかったのでほっとしました。競技役員さんに城東の先生が聞いたところ、「他の学校のがんばって泳いでいる児童に、ひとりだけ大きな拍手をしていたので、感動してほめました。」ということでした。さすが城東っ子！

もう1つは、全国学力・学習状況調査の結果です。質問の中に「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という項目があり、「そう思う」という城東小の回答が国や県、市のポイントよりはるかに高く、素晴らしい数字でした。感動しました。さすが城東っ子！

おうちの方や先生の、日頃の人権教育が実っていると、感動しました(^ v ^)